

地域農業をけん引して11年、「豊かな里」を築く農事組合法人
～基盤整備を活かし、持続発展する法人経営をめざして～

農事組合法人ファーム豊里
代表理事 多田野清朔（長井市）

1 候補者の概要

平成18年より実施された基盤整備事業を契機に、平成21年に集落の担い手により法人化。水稻、大豆を主力に園芸作物を組み合わせた大規模複合経営を行っている。

2 特色ある活動

(1) 地域の農地の受け皿として農地中間管理機構の事業を活用し規模拡大

農地中間管理機構の事業を活用するなどして、経営面積は約74ha（令和2年）となり、地区内のほぼ半数の農地を担っている。

(2) 水稻の安定生産と輸出米、飼料米の取組み

水稻は、側条施肥や直播栽培による省力・低コスト化を図り、牛ふん糞堆肥の施用や乗用管理機による機械除草を行っている。飼料米を専用品種で作付するほか、販路拡大として香港やハワイへの輸出に取り組んでいる。

(3) 大豆の先進技術導入・高品質生産

畝立て播種や播種同時深層施肥を導入し、株間除草機・除草剤畦間散布機による雑草対策、大豆専用コンバインによる適期収穫、大豆遠赤外線乾燥や大豆選別機の活用による品質向上等に取り組んでいる。

(4) 園芸作物の導入・拡大

かぼちゃはエコファーマーを取得し、畜産農家と連携した牛ふん糞堆肥の施用などを行っている。えだまめは、「秘伝」を主力品種とし、コンテナ出荷によりコストの削減につなげている。

(5) 地域の雇用創出と後継者育成

雇用従事者についてはすべて地元から採用しており、パート職員を年間延べ250人（令和元年）雇用するとともに、後継者として正職員2名を正規雇用している。

(6) 分担制による労務管理

圃場ごとに担当者を割り当て、各自の裁量で栽培管理を実施している。

3 今後の発展方向

- (1) 土地利用型作物の規模拡大と省力・低コスト化
- (2) 栽培技術向上から経営管理能力向上へ
- (3) 周年農業による通年安定雇用の確立とリスク分散
- (4) 後継者の育成と経営継承



ファーム豊里の施設外観



ファーム豊里の皆さん